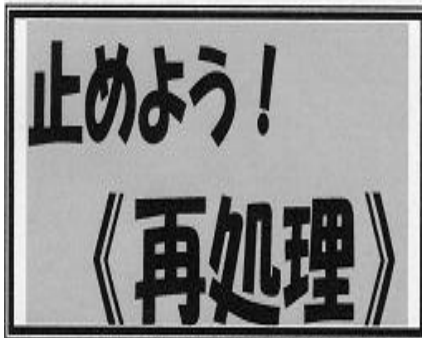


**三陸の海を放射能から守る
岩手の会**

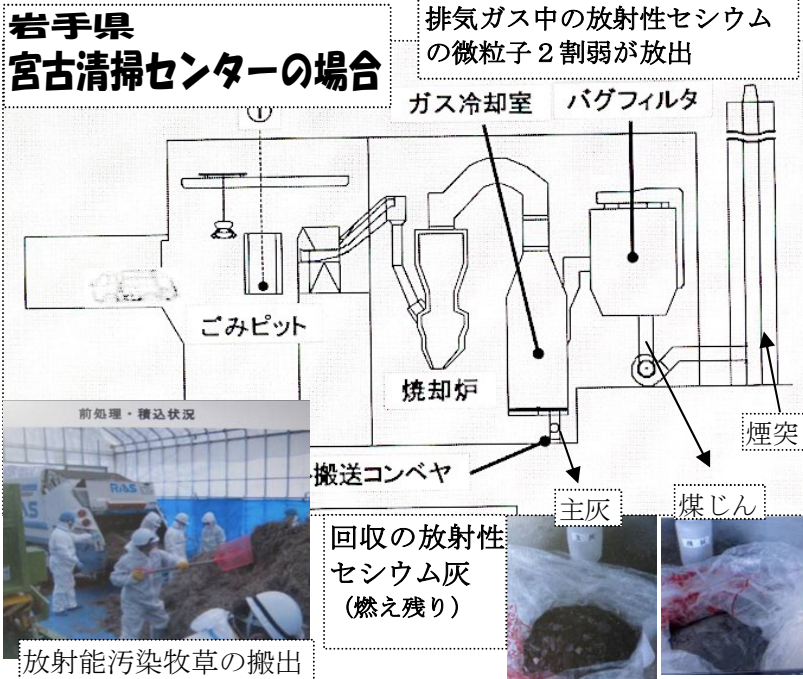
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理／岩手の環境》
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>
《まった再処理分庫》
http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2014(平成26)年
1月28日
第136号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

宮古清掃センター焼却炉から 放射性セシウムの16~19%が大気へ放出



東京電力福島原発事故で撒き散らされた放射性物質で汚染された牧草やホダ木が宮古・下閉伊広域圏内では約二六〇〇トが行き場なく貯蔵されています。環境省は「バグフィルタでほぼ百%捕捉回収できる」として一般ごみ焼却炉での処分を指導していますが、公表されているデータを科学的に読み解くと、捕捉出来ない放射性の超微小粒子が排気に含まれ、環境に放出されていることがわかります。宮古市のゴミ焼却施設で行われている汚染牧草などの焼却について、住民の岩見億丈氏、笹井康則氏らは焼却処分による放射性物質の大気放出を解明し論文を発表しました。

放射性汚染物焼却データを読み解く

**放射性の超微小粒子が
バグフィルタをすり抜ける**

試験焼却と本焼却

宮古広域行政組合は同市小山田にあるごみ焼却施設で昨年二月五日から四日間、放射能汚染牧草十一・六トを一般ゴミと混ぜて試験焼却しデータを公表しました。この四日間の試験焼却の投入放射性セシウムの総量は約一四一三万ベクレルと計算出来ます。また七月から始まった本格焼却では一月十七日までで約三〇六トの牧草やホダ木が燃やされ、その放射性セシウム総量は一億七三〇〇万ベクレルになります。
<http://www.city.miyako.iwate.jp>

トのゴミを焼却する能力があります。炉内の温度は八〇〇度〜八五〇度の高温でダイオキシンなども全て分解させ、その燃焼ガスをスプレー水で急速冷却し、バグフィルタに送り有害物質を除去する方式です。焼却報告書には、「この放射性セシウムはほとんどフィルタで捕捉され排ガスは『二ベクレル/立方メートル』の検出限界値以下であった」と記されています。

排出ガス濃度検査だけで判断できるのか?

岩見億丈氏の見解

岩見億丈氏は、社会学(疫学)の専門家ですが公表データを分析点検し二つの論文を発表しました。

*当会ホームページに掲載
<http://homepage3.nifty.com/gatayann>

一つの論文は「昨年の二月の四日間の試験焼却についてですが「焼却された牧草に含まれた放射性セシウムは八

最新鋭の焼却施設

上の図面や写真は、住民説明会資料からのものです。農家などに保管されている放射性物質が付着・吸収された牧草が運び出され、清掃センターのごみピットから焼却炉に投入されます。宮古市の焼却炉は最新鋭二基で一日に一八六

四％が灰に残り、十六％は大気に排出している」と推定しました。またもうひとつの論文では、昨年七月から始まった本焼却について一〇月までのデータを分析し「一九％の放射性セシウムはバグフィルターを通り抜け排ガスとともに大気中に放出された」と推定しました。

岩見氏は「バグフィルタで九九％除去するのであれば灰に九九％の放射性セシウムが残るはずである。排ガス中放射性セシウムの測定法に欠陥がある」と指摘しています。

公表されている残留灰の数値は一般ゴミと混合して焼却されたものの数字です。岩見氏は一般ゴミの放射性セシウムの標準的数値により、焼却日ごとの測定サンプルの混入状況を統計的に割り出し、汚染牧草分に見合う放射性セシウムの回収分量を推定しました。

○「ミクロン以下の放射性セシウム」も

岩見氏はさらに、一九七〇年代以降急速に進歩を遂げた大気中に存

在する粒子状物質についての研究の進展を述べ「大気中の微粒子は十

ミクロン以下の群、〇・一〜一ミクロン以下の群、そして〇・〇一〜〇・一ミクロン以下の群に大別される。〇・一ミクロン以下の群の割合（体積による）は約一九％くらいと言われ、宮古での捕捉出来なかつた推計値とも概ね一致する。なぜ今回の焼却の場合、放射性セシウムの超微小粒子について測定がなされていないのか、大きな疑問を感じると述べています。

環境省指定廃棄物対策チームの 鮫川村試験焼却データも 25％の放出を示す

焼却場新設候補地とされた福島県鮫川村のごみ焼却場において、環境省指定廃棄物対策チームによる試験焼却が、2013年7月16～18日までの3日間行われ、その報告が環境省ホームページに載っています。

<http://shiteihaiki.env.go.jp/pdf>

この試験焼却の結論は「排ガス中の放射性セシウム濃度は、バグフィルター出口においても検出されず管理目標値である2Bq/m³以下であった」としています。しかし報告書2ページ表1『燃焼対象物の投入処理量と焼却灰の重量及びセシウム濃度の測定結果』からは「25％」の環境排出が読み取れます。すなわち

A	焼却対象物	3日間の汚染牧草・稲わら
	総重量	1910kg
	放射性セシウム総量	61万6200Bq
B	煤じん	5600Bq/kgのもの82kg
	放射性セシウム総量	45万9200Bq
C	燃え殻	650Bq/kgのもの6kg
	放射性セシウム総量	3900Bq

従って A - (B+C) = 15万3100Bq

これは Aすなわち 焼却炉に投入した放射性セシウム総量の25％にあたり、炉内には存在せずフィルターをすり抜けて出て行ったことを示します。鮫川村のこの試験は、一般ゴミと混ぜないで、対象汚染物のみで行われましたので、結論は明瞭です。

川田龍平参議院議員が質問主意書 「バグフィルターでほとんど除去出来る」 科学的な根拠を示せない 無責任な政府答弁書

放射能汚染物の焼却によって新たな環境汚染が拡大しています。この問題について追及してきた川田龍平参議院議員は岩手の会と共同作業で昨年十二月に質問主意書を提出し政府答弁書を得ました。

川田議員の質問

環境省指定チームの福島県鮫川村焼却炉試験での「放射性セシウム回収率七五％」、岩手県宮古市の試験焼却での「回収率八一〜八四％」の結果について見解を

示されたい。

政府答弁書
お尋ねの趣旨が必ずしも明らかでないのでお答えは困難である。
川田議員の質問
焼却炉燃焼ガスの「微粒子の粒径分布」と「使

用バグフィルターが〇・一ミクロンまで除去できる」とするデータを示されたい。

政府答弁書

環境省として「分布割合」測定・分析はしていない。フィルター能力は公益社団法人「全国都市清掃会議」の出版物による。川田議員の質問
バグフィルターを抜けた排ガスをろ紙を通してさらに水(ドレン)を通して検査しているが検出限界値は妥当か？

政府答弁書

現在の測定方法は平成二三年に環境省が策定した「廃棄物関係ガイドライン」によっており、環境省告示とされ、適切であると考える。
川田議員の質問
排ガスの放射性セシウムがどれだけ水に抽出されるのか科学的な資料を示されたい。

政府答弁書

「抽出割合」についての知見は承知していない。
川田議員の質問
排ガスの「検出限界度」は「薄めて放出すれば最初から不検出」というゆるい基準である。濃度規制に加え「厳しい総量規制」を取り入れるべ

きだと思う。

政府答弁書

現在の規制値でも「年間一ミシーベルト以下」である。

川田議員の質問

世界的には「年間〇・一ミシーベルト目標」が提起されている。自治体などの独自の厳しい目標を奨励すべきだ。

政府答弁書

現在より厳しい基準は必要ない。

第四二回

日本有機農業研究会 全国有機農業者と 消費者の集い「収穫祭」

農業の未来を賢治の地イーハトーボで語ろう

日時 二月二三日一〇時半〜二四日午後一時終了、後見学会

場所 ホテル森の風 (鶯宿温泉)

◎記念シンポジウム ◎分科会

一日目 有畜循環型農業の展望他5分科会

二日目 脱原発を地域住民運動から考える など5分科会

*詳細は 同会ホームページ <http://yukinongyou-iwate.jindo.com/>